

【総合的な項目について】

○総合的な項目については、生徒・保護者の評価としては、おおむね順調との評価であった。一方、教員からは、教育活動全般において十分でないとの問題意識が読み取れる。

・《生徒評価》

「この学校に入ってよかった 70.8% (+2.7%)」

「学校へ行くのが楽しい 64.7% (-4.5%)」

・《保護者評価》

「佐野工科に行かせて良かった 94.7% (+0.4%)」

「子どもは学校へ行くのを楽しみ 74.8% (-1.2%)」

・《教員評価》

「生徒や保護者の願いにこたえている 66.0% (-7.9%)」

【学習指導について】

○生徒・保護者からの結果からは、ここ数年の授業改善の取り組みが一定の効果を上げ、今年はその状況を維持できていると考えられる。一方、教員においては現状に満足せず、生徒一人ひとりに応じた教育の提供の必要性を感じている傾向が強く読み取れ、また、工業教育の方向性にも大きな問題意識を感じていると思われる。

・《生徒評価》

「普通科目の授業はわかりやすい 76.9% (-1.8%)」

「専門科目の授業（座学）はわかりやすい 72.8% (-2.0%)」

「実験・実習などの授業はよく学習できている 81.1% (-1.5%)」

ともに微減であり、授業アンケートの評価は微増 3.21 (+0.3) であった。

・《保護者評価》

「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている 60.1% (+0.4%)」

・《教員評価》

「到達度の低い生徒に対する学習指導 40.0% (-14.3%)」及び

「学習意欲の高い生徒に対する学習指導 42.0% (-14.5%)」で否定的意見が増加。「習熟度別授業をおこなうべき 86.0% (+18.6%)」の項目が増加。

「本校の工業教育は現状のままよい 22.5% (-14.5%)」の項目で減少。

【生徒指導等について】

○生徒指導に関する項目においては、生徒・保護者からの回答からも一定の問題点がうかがえる。教員においても組織敵的対応の不備において問題が提議されており、今後より一層のきめ細やかな生徒指導の体制づくりが求められている。

・《生徒評価》

「いじめについて真剣に対応してくれる 78.8% (-1.6%)」

「先生の指導は納得できる 59.2 (-1.5%)」

・《保護者評価》

「いじめや差別を許さず、厳しく対応 84.9% (-3.9%)」

「学校の生徒指導の方針に納得できる 80.3% (-3.5%)」(H30までは「共感」)

・《教員評価》

「いじめの際の体制が整っている 42.0% (-16.7%)」

「組織的に対応できる体制 68.0% (+0.6%)」

「家庭との密接な連携 74.0% (-6.4%)」

【その他の項目について】

○生徒保護者ともに、進路についての目的意識と取り組みについては高い評価を得ている。また、保護者からは学校と家庭の連携において「不十分」との意見が増えている。教員においては、教員間での連携に強い危機意識を持っており、何らかの改善が必要と考えられる。

・《生徒評価》

「進路のことを考えてこの学校に入学 80.4% (+0.7%)」

「進路希望に応じた授業が選択できる 85.6% (+1.1%)」

・《保護者評価》

「ほかの学校にない特色がある 97.3% (+0.1%)」

「進路や職業について適切な指導 93.6% (-0.5%)」

「家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている 70.8% (-5.7%)」

・《教員評価》

「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている 56.0% (-13.6%)」

「教育活動について、相談しあえる人間関係ができている 54.0% (-9.0%)」